＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676500087
法人名	医療法人　たからべ会
事業所名	グループホーム　たからべ
訪問調査日	平成22年2月25日
評価確定日	平成22年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　平成22年3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4676500087
法人名	医療法人　たからべ会
事業所名	グループホーム　たからべ
所在地	鹿児島県曽於市財部町下財部1318番地9 (電　話) 0986-72-1677

評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成　16　年　12　月　20　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	8　人	常勤　8 人,　非常勤　人,　常勤換算　8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	1 階建ての　階　～　1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000　円		その他の経費 (月額)	光熱水費　1日 400 円
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数		9 名	男性	1 名	女性　8 名
要介護1		3　名	要介護2	3　名	
要介護3		1　名	要介護4	1　名	
要介護5		1　名	要支援2	名	
年齢	平均	85.1 歳	最低	77　歳	最高　96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	りゅうえいクリニック・財部記念病院・宅間歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

財部の中心地にほど近い住宅街に違和感なく建てられているグループホームである。理念に「入居者と職員の『和』を大切にしゆとりある生活が送れるように」とあり、開設当初からの利用者と職員が多く、ともに入れ替わりがほとんどなく信頼関係が構築されて、まさに「和」が保たれているホームである。職員の勤務形態も全職員が常勤で平等かつ働きやすい環境が離職の少ない職場を作り、職員数にも余裕が伺われ落ち着いた雰囲気の「家」である。また、ほとんどの職員が有資格者であり質の高いサービスの提供がされている。開設して6年目になり利用者の高齢化に伴い地域行事への参加や見学など外出が困難な状況になってきているが、可能な限り日常の買い物やドライブ、家族を交えての野外食やおやつ持参で花見を楽しむなど外出の機会を作っている。これまでの実績を活かし、今後も更なる充実が期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4)** 職員を育てる取り組みとしては全職員が交代で外部研修を受講できるように考慮しており受講後は復命研修を行って知識を共有している。災害対策については近隣住民への協力の声かけは行っているが、利用者がより安全に暮らせるように地元消防分団への協力要請や通報手順について再度検討し直すなど今後の取り組みが期待される。 **今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)** 管理者、職員は評価の意義を理解し、振り分けられた項目を職員は自己評価をして更にミーティングで意見を出し合って集約した。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6)** 家族代表、地域住民代表、行政職員などの参加を得て2ヵ月に1回行っている。ホームの状況報告や外部評価の結果報告、行政からの情報などが主な会議内容である。会議の内容はミーティングで職員に報告し、必要があれば職員全員で検討している。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7，8)** 家族が意見や要望を表せるように普段からのコミュニケーションを大切にしている。面会時、利用料入金時に気がついたことなどを訊ねたりして、出された意見要望については解決に向けて職員間で協議して改善に努めている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)** 高齢化に伴い外出がなかなか大変になってきているが、近隣のデイサービスの催し物に参加させてもらい地域の方々との交流に努めている。また、中学生の見学や地元ボランティアの訪問、お寺より毎月ホームへ法話、説法に訪れてくれるなど地域の方々の協力がある。災害時の協力要請もしており地域との連携が図れている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で話し合って作成したものである。長年地域で生活してきた利用者にとって地域での暮らしの継続の重要性と利用者と職員の信頼関係の大切さを謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、事務室に掲示している。事務室の理念は職員の目線に合わせた高さに掲げてあり、申し送り時に唱和し、理念を確認し、常に理念に沿ったサービスの提供に心がけ業務に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高齢化に伴い外出がなかなか大変になってきているが、近隣のデイサービスの催し物に参加させてもらうなど地域の方々との交流に努めている。また、中学生の見学や地元ボランティアの方の訪問、お寺より毎月ホームへ法話、説法に訪れてくれる。災害時の協力要請もしており地域との連携が図れている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解し、振り分けられた項目を職員は自己評価をして更にミーティングで意見を出し合って集約した。改善点についてはミーティング時に全員で話し合って改善に向けて取り組んでいる。外部評価の結果は運営推進会議でも報告し、玄関に置いて閲覧できるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域住民代表、行政職員などの参加を得て2ヵ月に1回行っている。ホームの状況報告や外部評価の結果報告、行政からの情報などが主な会議内容である。会議の内容はミーティングで職員に報告し、必要があれば職員全員で検討している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスについての相談や助言をもらうなど機会を捉えては連携をとるように努めている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会を兼ねて利用料の支払いをホームに持参してもらっており、面会時に日常の様子や健康状態の報告、金銭出納帳の確認をしてもらっている。職員紹介はホーム便り(毎月発行)で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や要望を気軽に表せるように普段からのコミュニケーションを大切にしている。面会時、利用料入金時に気がついたことなどを訊ね、出された意見要望については解決に向けて職員で協議して改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さを認識しており法人内異動は最小限に抑える様に努めている。職員の勤務形態が良く、開設当初からの職員も多い。2年ほど職員の入れ替わりがない。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の必要性を理解し、常勤、非常勤に関わらず、全職員が交代で外部研修に参加できるように考慮しており、参加者は研修報告をして全員が知識を共有できるようにしている。ホーム内研修は月1回のミーティングを利用して行っている。資格取得の支援もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	曽於市のグループホーム、小規模多機能の会に参加して情報交換や交流に努めている。同系列のグループホームの職員研修の受け入れや相互訪問などともにサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人、家族と面談して思いや意向を聞いている。可能な限り見学も勧めている。また、必要があり協力が得られれば家族の宿泊、面会などで徐々になじめるように支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず、方言や生活の知恵などを教わりながらともに支え合う関係を築いている。また、意思疎通の困難な利用者がふとしたときに見せる笑顔に喜びをもらうなど喜怒哀楽をともにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報、日常の生活の中で、言動や表情から一人ひとりの思いや意向を把握し本人本位に検討している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向、要望などを聞き、職員の意見も取り入れながら本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとの定期的な見直しと変化があれば都度見直しを行っている。入退院後の見直しも行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者の健康状態を小まめに把握している。また、本人、家族の要望、状況に応じて、病院受診など特別な外出の支援を柔軟に行っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。日常の気付いたことなどを記録した主治医との連絡ノートも作成しており連携が図れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方については入居時にホームの方針を説明し納得してもらっている。また、指針を作成し家族から同意書をもらい、全員が方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	なじみの関係と狎れ合いを勘違いしないように声かけについてミーティング時や折にふれ確認し合っている。職員採用時の個人情報保護についての誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、体調や希望に合わせた個別のケアで支援を行い、ゆっくりとした時間の中で生活してもらうことを心がけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園の野菜を職員と採りに行き、個々の力に合わせて準備、片づけなど職員とともに行うなど、力を発揮する場面を作っている。また、嗜好調査を行い、嫌いなものは代わるものを提供し、楽しい食事になるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を目安にしているが、可能な限り利用者の希望に合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テレビ観賞など日々の楽しみごとの支援や洗濯ものたたみ、お茶っぱ詰め、調理の下ごしらえ、花壇の手入れなどそれぞれの生活歴や力を活かした支援を行っている。また、花見、野外食、梅ちぎりなどの気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は日光浴をしたり、買い物同行、ドライブなど外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。昼間は鍵をかけず、玄関にセンサーを設置して外出の察知をしている。利用者が安全で自由な暮らしが送れるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと夜間想定で避難訓練と法人と合同で消火訓練を年2回行っている。備蓄もありカセットコンロの準備もしている。今年度は地元消防分団の協力を得られるように検討している。	○	住宅街でもあり、火災に対しての実践的な避難訓練を行い、協力者の把握と通報手順について再度職員全員で話し合い、利用者がより安全に暮らせるように今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は記録し、職員は個々の状態の把握をしている。身体状況に応じて食事形態(トロミ、刻みなど)を考慮している。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく畳の部屋には掘りごたつがある。換気も行きとどいており、清潔感がある。玄関、廊下など全てバリアフリーにしてあり安全面での配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けであるが、身体状況に応じて畳敷きで布団の利用にも対応している。入居の案内にも使い慣れた家具、置物の持ち込みを明記している。タンスやテレビ、家族の写真、家族からのお便りなどなじみのものや飾り物などで居心地良く過ごせるような居室作りがされている。		